

子どもを真ん中にした地域ぐるみの学校支援で、学校が元気に！地域が元気に！

**とんぐい村の
こみ・すく通信**
令和2年12月7日発行 **第27号**
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

初めて「とんぐい子ども会議」を開催します

**更別村CSアクションプランの子どもの取組協議
いじめ根絶に向けた三校の交流と意識醸成のため**

今年度、更別村コミュニティ・スクール(CS)委員会では、主にCSアクションプラン(地域でどのような子どもを育てていくか、何を実現していくかという目標・ビジョンを共有するもの)について熟議を重ねています。学校運営協議会の協力も仰ぎながら、学校、家庭、地域での取組は、ある程度の形が出来上がってきました。

アクションプランの中に子どもの取組があるのですが、その部分については、子どもたち自身に考えてもらうことが大事です。そのため、12月18日(金)に、村内小中学校三校の児童会・生徒会役員10名が中学校に集まって協議をすることになりました。

また、この機会に「いじめ根絶に向けた村内三校の交流」も行います。小中学校で交流をする中で、各校のいじめ根絶に向けた取組の一層の充実を図ることが目的です。このいじめ根絶に向けた会議の結果は、2月に開催される「更別村の教育を考える村民集会」で発表する予定となっています。

子どもたちへの応援メッセージ

10月に更別中央中学校1、2年生体育「柔道」の外部講師をしてくださった太田綱基さんからメッセージが届いていました。紹介させていただきます。



**更別中央中学校
の皆さんへ**

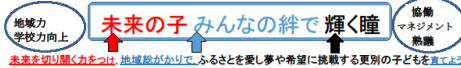
皆さんとの柔道の授業を通して感じたことをお伝えします。

一つは、皆さんには思いやりがあるということです。技を決めて相手を倒すとき、引き手(組み合う時の持ち手)を決して離さなかった。離してしまうと技を決められた相手がマットに頭をぶつけたりします。相手のことを考えて行動できているなと思いました。

二つ目は仲がよいということです。柔道は相手がいなくてできない競技ですが、友達と前向きにとっても楽しそうに取り組んでいるのが印象的でした。

新型コロナで大変でしょうが、これからも、仲間との時間を大切に、楽しく過ごして行ってほしいと思います。

更別村コミュニティ・スクール アクションプラン



※8月20日時点でのアクションプラン

子ども自身の家	学び	心	体	地土実
子ども自身の家	・自ら考え判断し、課題解決できる子ども ・コミュニケーション力のある子ども ・失敗から学ぶ子ども	・自分を大切にできる子ども ・思いやりのある子ども ・明るくあいさつができる子ども	・チャレンジする子ども ・根気強くなげばる子ども	・「更別」が好きな子ども ・いつでもどこに「更別」がある子ども ・ふるさとを大切にできる子ども
学校での取組	・「分かった」「できた」と思える授業づくりをする ・子どもが自ら学びたいなる心をつかむ授業を展開する ・伝えあい学び合う活動を充実させる	・子どもが安心して過ごせる居場所をつくる ・あいさつ運動を推進する ・異学年や地域との積極的な交流活動を行う	・地域の授業・行事・休み時間などで十分な運動の機会を確保する ・食べることから体づくりの大切さを学ぶ(栄養学)	・更別村の「人・もの・こと」を活用して、地域に活かせる機会を創出す ・ふるさと教育の充実を図り、更別への理解を深める ・ふるさと給食などを通じて、地域産品のよさを伝える
家庭での取組	・家族の会話を大切にする ・子どものサポートをする	・感謝の言葉を伝える ・子どもの良さをたくさん認める	・家族で体を動かす機会をつくる ・子どものチャレンジを家族で見守り、応援する ・家族みんなで規則正しい生活リズムを整える	・地域の活動・行事に参加する ・村のお店や施設をたくさん利用する ・家族で「更別」を楽しむ
地域での取組	・様々な機会を通して、子どもと積極的コミュニケーションをとる ・学校の要請に応じて、授業などに協力する。	・大人が積極的にあいさつをする ・みんなで死んでみないで愛める	・少年団や部活動などいろいろな形で応援する ・年齢に応じた運動に熱心な環境を継続的に保つ	・子どもにとって安全で安心できる地域をつくる ・更別の大自然に触れる機会をつくる

子どもの取組の部分、子どもたち自身で協議します。